

NEWS RELEASE

2024年4月17日

2023年度ペースト生育試験結果

食味収量は本年も良好、使用農家からは身体的負担軽減に役立つとの声も

三菱マヒンドラ農機株式会社(本社：島根県松江市、CEO 取締役社長：齋藤 徹)は、2023年度に全国で実施したマイクロプラスチック殻を出さないペースト発肥料を使用した水稲の生育試験の結果が、2年連続で食味収量ともに良好であったことを本日報告します。また、ペースト施肥を使用した生産者からは身体的負担の軽減にもつながるとの評価をいただき、ペースト施肥は環境にも人にも優しく、生産性の高い施肥体系であることを実証できました。

【生育試験結果の概要】

1. 試験計画総数 : 54 か所
2. 実際の試験実施数 : 45 か所(内うるち米は43 か所)
3. 最終集計データ : 収量計測数 41、食味測定数 39 他
分析値は10株の調査株を(株)片倉コープアグリつくば分析センターにて測定。
収量、食味値はうるち米に限定して集計。収量算定には1.85mmの振るい目幅を使用。
収量計算値が明らかに多いものに関しては、現地にて確認の数値等を記載、又は除外。
食味測定はKett AN-820、外観調査にはSATAKE RGQI 10Bを使用。
4. 集計結果 : 収量 実証圃平均 528kg/反(各県平均 503kg/反)
食味 極上 2件、優良 29件、良 8件
5. 生育試験の結果詳細は当社HPをご確認ください。
 - ・ペースト実証圃の結果報告：<https://www.mam.co.jp/feature/pastetaue/>
 - ・実証結果の詳細：<https://www.mam.co.jp/feature/pastetaue/pdf/result.pdf>

本試験は2022年に長岡市(新潟)、岡山市、矢板市(栃木)などで実施した実証試験において、平均を上回る良好な結果が示せたことを踏まえ、2023年度は全国規模での生育試験を実施し、各地域においてペースト発肥料の有効性を確認、地元の農家や農業関連団体と共有することで、さらなる理解の促進と浸透を図るために実施しました。結果、実証圃の平均収量は各県収量の平均値より5%程度高く、すべての地点で食味良好となりました。また、島根県でペーストチャージャーを利用して田植えを行った営農組合では、組織の高齢化が進む中、「マイクロプラスチック流出防止による地域環境保全のために導入したが、肥料を切り替えてみて、肥料補給の際に重い肥料を運ばなくても良くなったことが一番のメリットだった」と話し、作業負荷が大きく軽減されたことに対する喜びの声も聞かれました。



ペーストチャージャーで軽トラから直接肥料補給している様子

ペースト施肥は、雨でも田植え作業が可能、即効性があり活着がいい、一発肥料や2段施肥を使えば追肥もいらないなどのメリットもあり、導入した農家からは高い評価を受けています。当社では、今後も環境に優しく生産性の高いペースト施肥体系を推進することで、地域環境の保全と日本農業の発展に寄与できるよう努めてまいります。

《関連リリース》

- ・ マイクロプラスチック殻を出さないペースト一発肥料による水稻生育試験を本年度は全国 54 カ所で実施

https://www.mam.co.jp/news/pdf/topics_20230420.pdf

- ・ マイクロプラスチック殻を使わない水稻ペースト一発肥料の有効性を確認。食味良好、収穫量は平均を上回る。

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/00000001.000116205.html>